

平成23年度私立学校初任者研修 九州地区研修会実施報告

本年度の私立学校初任者研修 九州地区研修会が、7月6日（水）から8日（金）までの3日間、福岡市の福岡ガーデンパレスで開催され、定員を大きく上回る198名の参加があった。

まず、(財)日本私学教育研究所の中川武夫所長による講演「私学の現状と課題」でこの研修は幕を開けた。私学と公立の違い、戦後教育の問題点、私学を取り巻く喫緊の課題、教員免許状更新講習の今後、不満を持つ保護者への対応等、内容は多岐にわたり、私学にとって重要なことばかりだった。



次に、教科別の分散会を行い、学習指導上の問題点について、各校の現状報告と今後の課題を討論した。

次に、教科別の分散会を行い、学習指導上の問題点について、各校の現状報告と今後の課題を討論した。

研修2日目。この日はまず、立花高等学校理事長校長である齋藤眞人氏による講演「生徒指導について」の後、福岡県教育庁教育振興部高校教育課主任指導主事である中島良博氏の講演「学習指導について」へと続いた。

この2本の講演は、生徒指導と学習指導という教員にとっての2本柱とでもいうべき重要な課題であり、初任者教員として力を入れるべき仕事であろう。齋藤、中島両氏からは、明快で歯切れの良いお話をいただき、受講者たちは一心にペンを走らせていた。

午後からは、生徒指導と学習指導の二つの分散会が行われた。この分散会を実施するに先立ち、事前に興味ある議題について選択させていたので、受講者たちはスムーズに話し合いに参加することが出来たようだ。

研修最終日3日間。この日は、まず初めに前日の分散会の成果を報告する全体会が行われた。各分散会での熱の籠もった議論が、他のグループにもよく伝わった報告であった。



最後に、柳川高等学校テニス部監督である本田健児氏による講演「教えているつもりが、教えられている」でこの研修会を締めくくった。数々の一流の選手を育て上げた本田氏ならではの生徒への想い。その熱い言葉に、教師となった重みを初任者たちは実感しているようだった。

